

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400065		
法人名	社会福祉法人 光和会		
事業所名	グループホーム むいぐすく		
所在地	沖縄市諸見里3-41-30		
自己評価作成日	2024/10/21	評価結果市町村受理日	令和7年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=4790400065-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和6年 11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員が御利用者様一人一人の意思決定を尊重したサービス提供が行えている。 ・施設周辺の散歩を生活リズムの中に取り入れている。 ・外出支援を要所に取り入れ、施設サービスのマンネリ化を防いでいる。 ・身体拘束ゼロを掲げ実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『理念ブック』というポケットに入れて持ち歩くことのできる小冊子を作成し、中には理念、行動指針などを掲載している。更新を重ねて職員に浸透を図っている。また、近隣にある地域の公民館の餅つきに参加するなど自治会との関係は良好である。法人でエイサー・演舞をする際に青年会で使用している衣装と太鼓の貸し出しを依頼したり、公民館から駐車場借用の依頼をうけるなど相互の協力体制が整っている。就業環境の整備にも力を入れており、外国人職員のために法人内に日本語学校開設を予定している。介護ロボット、ペーパーレス化をすすめて業務改善を行い外国人も含めた働く職員の環境改善に積極的に取り組んでいる。事業所内は、意見を言える雰囲気を作られ、法人の方針「グッドトライ(良い挑戦)」の考え方の基でミーティングや朝礼、日頃のコミュニケーションが行われている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員一人一人が理念を理解し、家庭的な雰囲気を中心に掛けながら日々の業務を行っています。	働いている職員の意見を反映できるように法人理念を見直して『理念ブック』というポケットに入れて持ち歩くことのできる小冊子を作成した。中には理念、行動指針などを掲載している。更新を重ねて職員に浸透を図っている。また、目に見える共有方法として職員が使うエレベーターの上部に理念を大きく掲示し常に目に入る工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・毎月の日課の散歩を通してご近所様との交流も見られる。又、公民館行事に時々参加し楽しい時間を過ごしている。	近隣にある地域の公民館の餅つきに参加するなど自治会との関係は良好である。法人でエイサー演舞をする際に青年会で使用している衣装と太鼓の貸し出しを依頼したり、公民館から駐車場借用の依頼を受けるなど相互の協力体制が整っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所内に認知症に関する資料や本を置いて、御家族や来訪者が閲覧できるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・年6回(偶数月)会議を開催し、サービス提供状況の報告等を行っている。	年6回の運営推進会議が開催され、事業所の運営内容について質疑も活発に行われており、市の担当者とも意見交換を行う機会になっている。また声かけ、参加促しをしているものの構成員の地域代表者の参加が多忙を理由に確認できないことが複数回ある。	地域代表の方の事情も考慮されることは重要であるが、地域に情報を開示して運営に参画してもらうために構成員の要件の見直しや更なる工夫を行い、参加率の向上を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・年6回、グループホーム連絡会に参加し、行政報告や各事業所が抱える問題点などを話し合い、情報を共有しながら改善、向上に努めていますが、現在、コロナ感染症対策の為、実施できていません。	年度ごとに担当の変わる市の担当者とは、挨拶から関係構築までを毎年行い、連携に努めている。運営推進会議以外では電話でのやりとりを行い、報告連絡相談を実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止は施設や法人の核であり常に実施している。	指針の文章とマニュアルが整備されている。また身体拘束適正化に関する委員会の開催が3ヶ月に一度確認できる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員一人一人が認知症を十分理解し、連携しながらサービス全般への心遣いや配慮を心掛けて日々の業務を実践しています。 ・指針の整備や委員会の開催、定期的な研修、虐待防止の勉強会を実施し、職員周知行っています。	指針の文章とマニュアルが整備され、また高齢者虐待に関する委員会の開催が3ヶ月に一度確認できる。職員に向けての研修を年2回実施しており、内容の周知徹底に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修への参加や研修資料などの回覧、または報告書を持って学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時には必ず、御家族や利用者本人に対し契約の内容に関する説明を十分に行い理解や納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・御家族や利用者様とのコミュニケーションを常に大事にし、普段の何気ない会話の中から意見や相談があれば確認し、その都度、対応や検討をしている。	利用者からの意見要望に耳を傾けることに留意して職員は意見を上司に報告している。また事業所の玄関横の壁面に意見箱ポストを設置している。家族の希望で利用者に訪問マッサージを利用したいとの相談があり、外部からの訪問を受け入れている。利用者の方も段々と馴染みになり、保険外サービスとして継続している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員に対しても、普段から十分にコミュニケーションが図られている。	事業所内は意見を言える雰囲気醸造されている。職員が主体的に「これをしたい」「あれがしたい」という行動に関しては法人の方針「グッドトライ(良い挑戦)」の考え方の基でミーティングや朝礼、日頃のコミュニケーションが行われている。ロゴデザインをするのが好きな職員が事業所のオリジナルロゴを作成し、実際に採用されるなどの意見反映の好事例がある。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員が働きやすい職場環境の整備に取り組み、条件等を整える為の話し合いを、管理者は常に代表者と意見交換に努めている。	夜勤職員の年二回の健診が行われ、希望休の取得も職員同士で助け合うことを実践している。職員の適正評価の一貫として今年度より人事考課を導入している。外国人職員のために法人内に日本語学校開設が予定され、介護ロボット、ペーパーレス化をすすめて業務改善を行い外国人も含めた働く職員の環境改善に積極的に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々に応じた外部研修に参加したり、介護リーダーや介護支援専門員を中心に技術指導やメンタル指導も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・2ヶ月に1回、沖縄市グループホーム連絡会の集まりに参加し情報交換を行っていましたが、令和2年より、コロナ感染症予防の為、実施できておりません。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者の不安を確認し気持ちを汲み取り、傾聴する姿勢を持つ事に心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・御家族の介護に対する思いや不安、今後についての意向の確認、傾聴する姿勢を持つ事に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人や御家族にとって最優先解決課題を抽出し、必要に応じて他職種と連携をしながら課題解決に向けた提案、対応をするように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の自己決定がなされる支援を心掛けるとともに、利用者同士が寄り添えるような生活空間や環境の整備に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人と御家族との絆を断ち切らないように、積極的に面会、外出等の提案を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ感染症5類に移行後は、病院受診の帰りにドライブに行かれたり、馴染みの飲食店で外食をされたり楽しめる機会も増えてきました。又、お盆には久しぶりに一時帰宅し、家族や親戚と過ごされています。	家族及び親族の協力の基、以前勤めていた職場への来訪が実現したり、馴染みだった思い出のレストランに出向き、長年勤めている職員との交流をするといった馴染の場所や人との関係継続が行われている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日課活動を通して隣同士、お茶を飲みながら、幼いころの話をしたり、出身地や家族の話をしたりと、交流の場を持たれています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後も利用者や御家族との関係性を維持し、相談があれば支援、助言に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中で、利用者の表情や言動の中から思いや意向を汲み取り、自立支援に繋がっています。	入居時に得られた生活歴の情報、家族から聞き取れるお話、日々のケアの中、言動から読み取れること、好きだったものが何だったか、などを収集して意向をくみ取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や馴染みの暮らしを利用者本人や御家族から情報を伺い、希望に添える様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日頃から利用者の心身の状況、認知度について把握し、出来る事を見つけて少しでも取り組みや活動に参加して頂けるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護支援専門員を中心に利用者、御家族、介護支援専門員と話し合いの場を持ち、利用者の置かれている状況の即した介護計画書を作成、介護記録に残している。	介護支援専門員は定期的に行われるミーティングにて職員から発せられる日々の利用者ケアの情報に耳を傾けてモニタリングを行っている。モニタリング時期は3~4ヶ月ごとに実施、利用者の変化に留意している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録へ個々の利用者状況を記載し、介護職員全員が情報を共有し把握できている。又、日々の状況や御家族とのやりとりを支援計画に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・御家族が病院受診の後にドライブされて帰所されたり又、併設の特養ホームの入所中の御家族や共通の知人が訪ねて来られたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・住み慣れた地域の商店や公民館を巡り、地域資源の活用にも努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・御家族には定期受診や体調不良時には利用者の受診をして頂き、必要時、かかりつけ医や認知症専門医へ利用者の状態を情報提供し、適切な治療が受けられている。	利用者全員がかかりつけ医を持ち、定期的な受診されている。基本は家族が病院受診対応になり、認知症の病状悪化の場合は主治医と情報交換をしながら薬の調整をする等対応を行っている。受診後は必ず主治医から薬の情報や状態について家族を通して共有を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・グループホームには看護配置が無いので体調不良時が出た場合、法人併設の森城看護師に来てもらい、助言やアドバイスを受けながら適切に利用者への対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護支援専門員が入退院先の地域連携職員と情報交換を密に行いながら、早期退院に向けて受け入れ時期などの調整を図っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・グループホームには、看護配置が無いので定期的に法人併設の森城看護師に見守りに来てもらっている中、助言やアドバイスを受けながら適切に利用者への対応を行っている。	入所時に重度化や終末期に向けた対応方針について説明を行い同意を得ている。看取りの対応は行っていないため、同法人の看護師に相談や見守りを行ってもらい、急変時等や事前に病院受診をする等して早期の対応を心がけている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・法人併設特養ホーム看護師が中心になり必要時には指導、助言をもらいながら日々のケアに繋げている。又、夜間帯はドクターメイトへ連絡し指示や助言を頂いている。	急変時や事故発生時において、同法人にいる看護師と連絡をとり、医師と相談ができるように対応している。夜間帯には利用者の体調不良時に問い合わせをするために契約している外部相談サービスを利用し、緊急時の対応を指示や助言をもらうことでの確に行えている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	・昼夜を想定した消防避難訓練を年2回実施し、職員は避難経路を周知している。又、業務改善計画の策定や指針の整備をし併設特養ホームと合同で定期的に委員会の開催や勉強会を行っている。 ・感染症予防や蔓延防止のための委員会を開催し指針の整備、研修に参加している。	日中想定避難訓練の実施が記録から確認できたが、水と食料の備蓄は正確な分量と消費期限が把握されていない。停電時に稼働の発電機は定期的に点検がなされている。BCPの策定があり、職員への研修が記録にて確認でき、感染症対策に関する指針の整備と研修も実施されている。	根拠を示す備蓄リストが数年前から更新されておらず把握が出来ていないため、物の数、消費期限、分量が明記されたリストの作成に期待したい。また夜間想定避難訓練の実施が早期に望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ケアの実践時には本人への意思確認を行い声掛けにも細心の注意を払いながら同意を得て実践するよう職員一同心掛けている。	職員は利用者と馴れ合いになりすぎないように言葉使いに気を付け、ミーティングで話し合い注意している。また、外国人の実習生は職員の言葉使いを手本にしているため日頃から意識して対応している。各居室にはドアが取り付けられており、必要に応じて開閉し利用者のプライバシー確保を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・常に言葉がけを行う中で本人の意思を確認し、自己決定ができる様、支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・自宅で休みたい時やお風呂に入りたくない時など利用者本人からの訴えを傾聴し、無理なく過ごせるよう配慮しながら声掛け見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・出張散髪により定期的に理容師が訪問し、身だしなみの支援を行っている。又、整髪、髭剃り、爪切りを行い容姿には気を付けている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・栄養士により個々の利用者の状態にあった形態を確認し、栄養バランスにも配慮した食事提供を行っている。	職員は利用者とは一緒にの時間には食事はしていないが、仲の良い利用者同士席の配慮を行っている。食事中にはテレビは食事に集中ができないため流していないが音楽を流しながらリラックスした雰囲気ですべてを楽しまれている。誕生会にはケーキを準備し、食べたい食事のリクエストを聞いて提供している。食事の後片付けや洗い物を一緒にできる方は一緒に行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者一人ひとりの食事の摂取量を記載し、状況把握に努めている。水分摂取量は一日1200～1500mlを目標に実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、見守りや言葉がけ、介助により、口腔ケアが行われている。又、義歯の不具合や口腔治療が必要な方は歯科受診されている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・法人全体でおむつゼロを目標に取り組んでいる。日中は、なるべく、トイレで排泄できるよう見守りや介助を行い、夜間は睡眠の妨げにならないように、個々に応じた夜間用パットを使用している。	すべての利用者の排泄チェックをチェック表にて把握し、オムツゼロを目標に対応している。入所前からリハビリパンツ使用していた利用者は布パンツに変更し、日中はトイレでの排泄ができるようになった方がいる。夜間帯についてもパットを使用し、できるだけオムツの使用を軽減できるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・1日の水分摂取量を1200～1500mlに設定している。又、食物繊維補助食品などを活用し、食時や飲み物に入れたり日中の活動量を増やしたりし対応している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は週3回実施し、利用者には予め入浴日と時間を告げ納得を得られている。嫌がる利用者には無理じいせず、時間をずらしたり曜日を变えたりして対応している。	基本は午前中での入浴を行い、週3回実施している。利用者の中には音楽をかけてほしい方や午後に入浴希望の方など対応している。入浴拒否のある方には時間を替えたり、別の職員にて対応することで入浴支援が行えている。また、状況に応じて清拭やドライシャンプーを使用し、拒否が強い場合にもできることを検討して対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や本人の睡眠状態に合わせて休憩を入れたり、寝具の調整をしたり、安心して眠れる環境づくりをしている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局からの薬剤情報を確認し、分からない薬剤があれば、提携薬局の薬剤師に確認を行っている。又、週1回薬剤師が訪問した際に、利用者の状態報告も行い症状の変化に留意している。	利用者全員が入居時に説明を受けた上で薬剤師による居宅療養管理指導を利用している。週1回の薬剤師との服薬に関する相談や残薬等の確認があるため職員も安心して服薬についての対応ができています。マニュアルは整備され、現状は飲み忘れはない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・歌を歌ったり、踊りをしたり、各々の趣味、嗜好を確認しながらサービスに取り組んでいる。又、天気の良い日には、施設外周を散歩するのを楽しみにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・月行事の買い物を利用者と出かけたり、御家族面会時に散歩に行かれたり、日常的に気分転換を図っている。又、家族の記念日に写真館に連れ出し、記念写真を撮られたりしている。	近くのかねひでへ車で行き、毎月のイベントの材料やお菓子を購入したり、近隣の公民館へ散歩に行くなど気分転換を図っている。また、天気の良い日は外気浴を行い、利用者同士や職員との交流を楽しんでいる。病院受診後には家族と外出や外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・通帳コピーを本人確認し銀行にお金がいくらあるかを知ることによって安心されている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望日に社内電話を使い、御家族などに連絡を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者の日常生活での活動写真や四季折々の飾りを見える楽しみにも工夫している。又、食堂ホールには大きな窓があり、心地よい光や風を感じたり、馴染みの曲を聴きながら穏やかな時間を過ごされている。	季節に応じた飾りつけを利用者と職員共同で作成し、利用者に季節を感じてもらえるように工夫している。また、壁には利用者の写真や装飾があり温かみのある雰囲気を感じられる。テーブルの配席位置を変えることで楽しく食事ができるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った利用者を隣同士にし、窓越しに見える訪問客や業者を見ながら会話を楽しませている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の使い慣れた物、装飾品などを御家族に協力を頂いて持ち込みをお願いしている。(写真、本、カレンダー、人形等)	利用者が大切にしていた日本人形や抱き枕、タンスの持ち込みがある。また、家族との写真、カレンダーが壁に飾られており、本人が居心地良く過ごせるように配慮されている。居室に本人と相談した後、手すりの設置を行い、安全にも配慮した対応を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室やトイレが分かるように、目印を作り迷わず行けるように工夫したり、洗濯物たたみをしてしながら自分の服を見分けたりと、常に声掛けしながら行動を見守りしている。		